

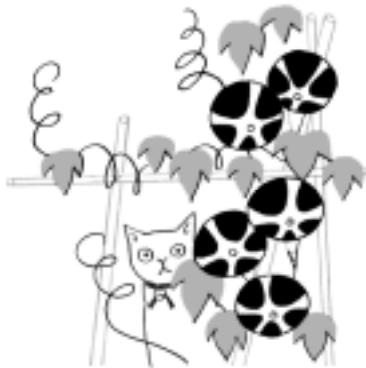
純粋倫理を支える「七つの原理」の一つに「発顕還元の原理」があります。別名「振り子の原理」とも呼ばれます。ヒモの先に玉が付いた振り子は、右に大きく振れば、玉は弧を描いて左に大きく振り返し、小さく右に振れば、左に小さく振れます。物事はすべて振り子と同じように、相反する二つの方向の間を動いて進みます。一方は「発顕」(出る)の方向、もう一方は「還元」(入る)の方向。二つの方向を交互に運動していることを「発顕還元の原理」と呼びます。

この「発顕還元の原理」は、あたりまえの理(ことわり)ですが、私たちの日常生活では、案外忘れられているのではないのでしょうか。「出入り」「出納」ともいうように、得るためにはまず出すことが先です。その原則を忘れ、儲けることばかり考えて金銭の出し惜しみをしていると、知らぬ間に経営が苦しくなります。

会社や個人の進歩成長を考える上で、この「発顕還元の原理」をはずすと、大きな成長や継続的な進歩は望めません。振り子の玉である自己や会社を、前(未来)に大きく、かつ繰り返し進ませるためには、いったん後ろ(過去)にしつかりと、そして何度も振り戻すことが大切です。

「後ろ(過去)に振り戻す」とは、これまで会社を支えて来た先人や恩人に対して感謝の意を捧げるなど、正しく心向けることを意味します。具体的には、お墓参りがその実践の一つです。東京にある多磨霊園で多年石屋を営んでいる人によると、墓参をちゃんとしている人の仕事や家庭は、

いま呼び戻したい 墓参の秘めたるパワー



え・牧えみこ

比較的うまくいつているのに対し、お参りにめつたに出来ない人は不幸になっていることが多いそうです。

Kさんは、常日頃から自分は運のよい人間だと感じています。仕事で行き詰まると、いつも誰か応援者が現われ、救われた経験を何度もしています。そんなKさんが日々行なっているのが墓参です。出張で地元に行かないとき以外は、必ず一日一回、創業者のお墓に参っているのです。

Sさんは息子のことで悩んでいました。学校を出てもまともに就職せず、やっと仕事をみつけたと思うと、一週間もたらず退職。注意すると、逆ギレする始末でした。信頼する先輩に相談すると、亡き父の墓参を勧められました。それまで訳あって父を憎んでいたSさんは、始めたころは半信半疑でした。しかし繰り返し墓参するうちに、父への憎しみが氷解するのを感じ、逆にこれまでの不孝を詫びる気持ちに変わりました。Sさんの気持ちが変化しはじめた度その頃から、息子は落ち着きを取り戻し、新たな仕事を見つけ、継続して働き始めたのです。(『ここに倫理がある』新世書房 参照)

前記二件は、墓に対する心構えが私たちの実生活に大きな影響を与え、生活の基盤となつていることを証する好例といえます。今年も間もなく、先祖の精霊を迎え祭るお盆がやってきます。感謝の念が日々の生活の中で疎遠になつていっていると感じている人は、祖先や先人に対して心の振り子を大きく振り戻すためにも、今から墓参の計画を立ててみてはいかがでしょうか。